

明石市

国際協力海外レポート

山田 雄一郎(やまだ ゆういちろう)【JICA 青年海外協力隊】

赴任地：パナマ共和国 チリキ県ダビッド市
職種：幼児教育
赴任期間：2010年6月～2012年6月（予定）



明石市の皆様、こんにちは。青年海外協力隊、幼児教育隊員として、2010年6月より中南米のパナマ共和国のチリキ県ダビッド市で活動をしている山田雄一郎です。

任期は残り2ヶ月をきり、活動も大詰め。しかし、「焦っても仕方がない」「今できることをやろう」とは、ここで学んだフレーズ！最後まで、それを通すのがパナマ流です！2年という貴重な時間をこの素晴らしい地で過ごせることに感謝しつつ、任務を全うしたいと思います。

私が活動している幼稚園は、先住民族の子どもたちが通っています。自然の中で生まれ、山を駆け回り、川で大胆に水浴びをする園児らは、まさに“野生児”達です。小さな頃からたくさんの兄弟や親戚に連れ回されて育つせいで、とてもたくましい。4・5歳ともなると自らオレンジやマンゴーの木によじ登り、採ってくる子どもたちです。そんな野生児達を見ていると、日本の子どもたちはどうだろう・・・？とやはり考えてしまうもの。小さい頃から、お人形のように綺麗な服を着せてもらって、色んな玩具に囲まれ、歩き回っても足に汚れ一つつかない。4・5歳ともなると、まるで大人のような口調で話し、一丁前に親に物申す子どもたち。同じ年齢でこうも違う子どもたちを見てみると、やはり教育環境や家庭環境が大きく子どもの成長を左右させてしまうものだと感じます。

どちらが幸せでしょうか？

私自身とても驚いているのが、こちらパナマに約2年住んでみて、こうも価値観が変わってしまうものかということです。という、これは偏見なのかもしれませんが、この先住民の子どもたちを見ていると、彼らに“足りないモノ”を感じないからです。生きていく為に必要な食料があり、家族や親戚に囲まれ、国からの支援も入ってきている。（もちろん、医療問題・就労問題・水問題など、足りないモノを探せばいくらでもできます・・・）

先進国という手を伸ばせば何でも手に入る環境で育った人々は、発展途上国の人々に“貧困の人々”というレッテルを貼るのかもしれませんが。事実、私自身が持っていました。

そして、資金があることは必ずしも“豊か”ではないと、ここで感じました。



2012/4/22 JICA 青年海外協力隊員 山田 雄一郎